

エスプレッソ専用ミル【ラ・チンバリ】

ENEА(100V) (業務用)

LA-CIMBALI

取扱説明書



このたびは、当社のエスプレッソ専用ミル(ENEА(100V))をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

この商品を安全に正しくご使用いただくために、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ安全にお使いください。

お読みになったあとは、大切に保管し、必要なときにお読みください。

目 次

安全上のご注意	1～6
各部の名称	7
操作手順	8～13
使用前の準備	8～10
コーヒー粉の取出しかた	10・11
メッシュ（挽きの粗さ）調節について	11・12
豆挽き時間の変更方法	13
お手入れ	14
故障の診断と手当	15・16
据付けについて	17
仕様	20
保証書（別添付）について / 消耗部品 / 補修用性能部品の保有期間 ...	21

安全上のご注意

ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください

表示と意味は次のようになっています

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害*の発生が想定される内容を示します。

*物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 感電注意	△は、注意（警告を含む）を示します。 具体的な注意内容は、△の近くや中に絵や文章で示します。 左図の場合は「感電注意」を示します。
 接触禁止	⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「直接手を触れないこと」を示します。
 プラグを抜く	●は、行動の命令（強制）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜く」を示します。

⚠ 警告



アース線接続

アース線を必ず接続すること

アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。設備側にアース端子がない場合、電気工事士によるD種接地工事が必要です。電気工事店に依頼してください。



専用電源

本機の電源は、専用の漏電遮断器付サーキットブレーカーもしくは、それと同等の設備のある専用コンセントを使用すること

電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、およびタコ足配線をした場合には、感電や発熱、火災の原因になります。



電気工事

電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」に従って施工し、必ず専用回路を使用すること

電源回路不良、容量不足や施工不備があると、漏電、ショート、感電、火災の原因になります。



屋外禁止

屋外で使用しないこと

雨水のかかる場所で使用されますと、漏電、ショート、感電の原因になります。



湿気禁止

湿気の多い所や、水のかかり易い場所に据え付けないこと

本体や電源コードに水がかかると、絶縁低下から漏電、ショート、感電の原因になります。



水掛け禁止

本体に直接水をかけないこと

漏電、ショート、感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけないこと

加工したり、引っ張ったり、たばねたり、また重いものを乗せたり、挟み込んだりすると、電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。



禁止

電源コードや電源プラグが破損している場合は使用しないこと

電気装置や配線に触れると、感電する恐れがあります。



点検清掃

電源プラグは、刃および刃の取付面にほこりが付着していないか定期的に確認し、ガタのないように確実に差し込むこと

ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、ショート、感電、火災の原因になります。

⚠ 警告



連絡

漏電遮断器または、サーキットブレーカーが『OFF(切)』に作動した場合には、お買上げ店に連絡すること

無理にレバーを『ON(入)』にすると、ショート、感電、火災の原因になります。



接触禁止

機械内部の電気装置や配線にさわらないこと

電気装置や配線に触れると、感電する恐れがあります。



濡手禁止

濡れた手で電源プラグなどの電気部品に触れたり、電源スイッチを操作しないこと

漏電、ショート、感電の原因になります。



プラグを抜く

異常時は電源スイッチを切って機械を止め、電源プラグを抜くか、本機専用電源を『OFF(切)』にしてすぐにお買上げ店へ連絡すること

異常のまま使用を続けると、ショート、感電、火災の原因になります。



ガス栓閉

ガス器具などからガスが漏れていたら、ガスの元栓を閉めて、窓をあけて換気すること

本機の電源スイッチを「ON(入)」にしたり、電源プラグを抜いたりすると、引火爆発し危険です。



挿入禁止

ミルカッターの回転中は、ホッパーの中からカッター内部に指、箸、スプーンなどを入れないこと

ケガおよび故障の原因になります。



プラグを抜く

ホッパーや粉容器の中に手を入れるときは、電源スイッチを切って機械を止め、電源プラグを抜くこと

誤って電源スイッチに触れた場合、ケガをする恐れがあります。



分解禁止

修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理はおこなわないこと

異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると、ショート、感電、火災などの原因になります。



改造禁止

改造は絶対におこなわないこと

改造をされると、ショート、感電、火災の原因になります。

⚠ 警告



専門業者

廃棄は専門業者か、お買上げ店に依頼すること

放置しますと、子供などがケガをする原因になります。

⚠ 注意



水平据付

丈夫で平らな所に水平になるように据え付けること

据え付ける場所が、ガタついていたり、かたむいていたりしますと転倒、落下によるケガなどの原因になります。



禁止

本機の上に重量物や、水を入れた容器を置かないこと

落下してケガをしたり、こぼれた水で電気部品の絶縁が悪くなり、漏電、ショート、感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードを持って抜かないこと

必ず電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると電源プラグ内部でコードに傷がつき、ショート、感電、火災の原因になります。



熱器具禁止

熱器具を乗せたり、熱器具を周囲に置いたりしないこと

熱で樹脂の部品が変形したり、破損したりした場合、ケガの原因になります。



可燃物禁止

可燃性のスプレーを近くで使用したり、可燃物を置かないこと

本機の電源スイッチを「ON（入）」にしたり、電源プラグを抜いたりすると、発火の原因になります。



開放禁止

常時、ホッパー蓋は閉めておくこと

開けたままにしますと、不純物（虫、ホコリなど）が混入することがあり、健康障害の原因になります。



プラグを抜く

お手入れのときや点検のときは、必ず電源スイッチを切って機械を止め、電源プラグを抜くこと

誤って操作スイッチに触れた場合、ミルカッターが回転してケガの原因になります。漏電、ショート、感電の原因にもなります。



拭き取る

洗剤を使ったあとは、洗剤成分を十分拭き取ること

洗剤成分が残っていると、健康障害の原因になります。



プラグを抜く

休日前には、安全のため本機の電源スイッチを切って、電源プラグを抜くこと

電源プラグやコンセント部にほこりが溜まって発熱、発火の原因になります。

⚠ 注 意



動作点検

漏電遮断器は月に 1 回動作確認すること

漏電遮断器を故障のまま使用すると、漏電のとき動作せず、感電の原因になります。

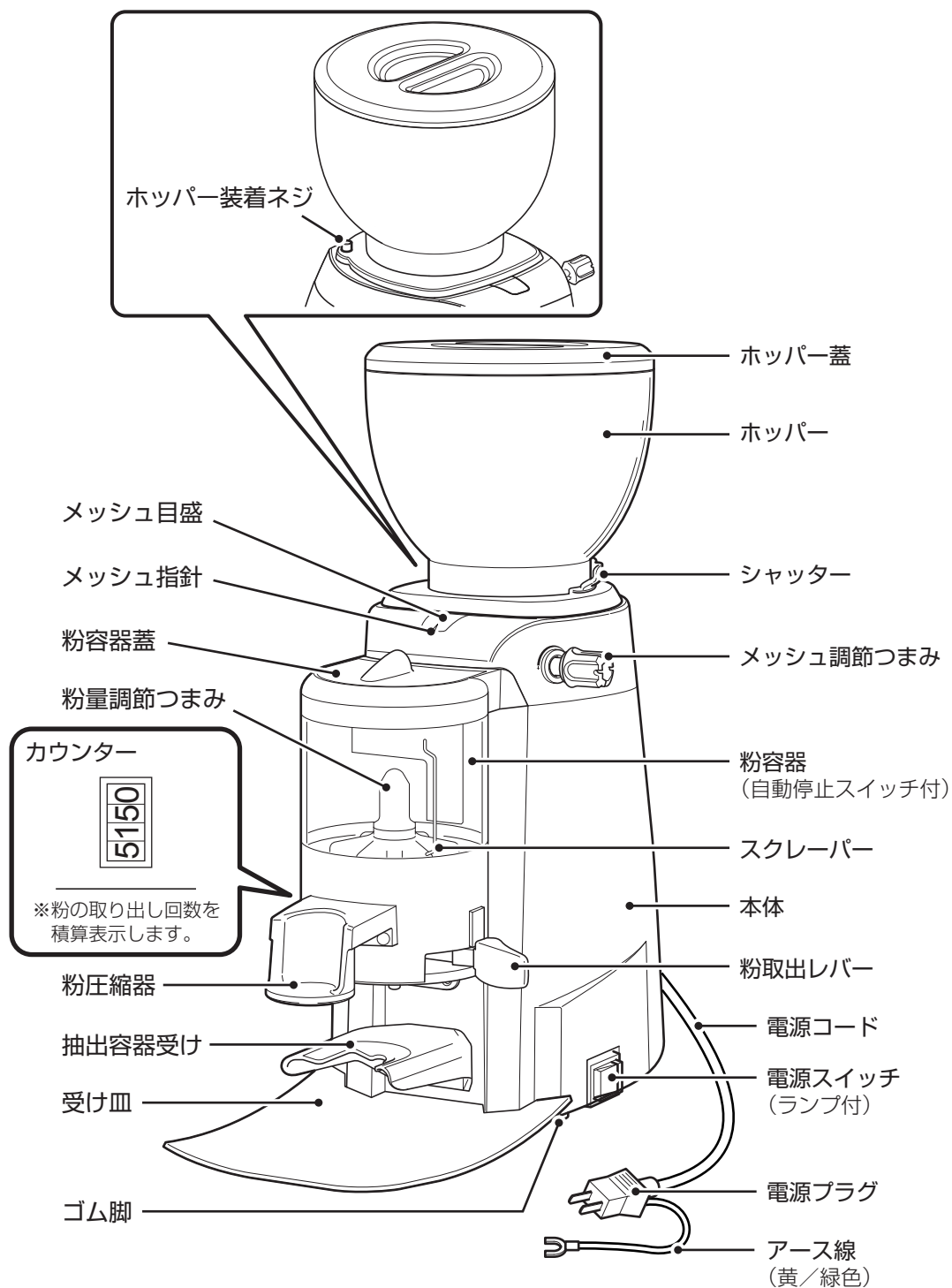


テープ止め

このお使いになっている商品を他に売ったり、譲渡されるときには、新しく所有者となる方が安全な正しい使いかたを知るために、この取扱説明書を商品本体の目立つ所にテープ止めすること

各部の名称

本機は、エスプレッソ用にコーヒー豆を挽く機械です



操作手順

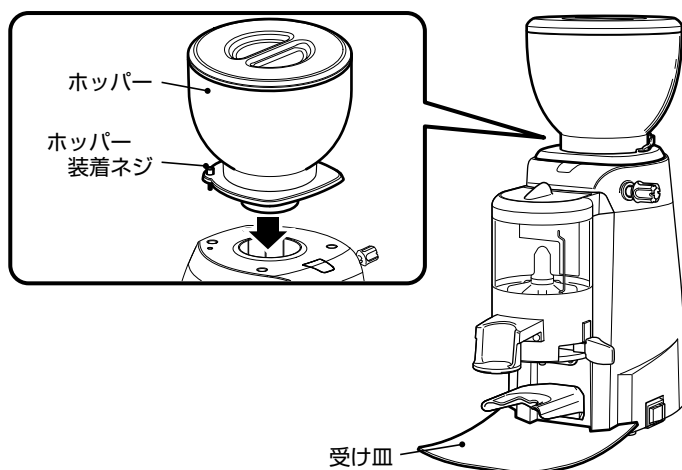
使用前の準備

1. ご使用になる前に、ホッパーを清掃してください

「お手入れ」(14 ページ) 参照してください。

2. ホッパーと受け皿を本体にセットしてください

ホッパーをセットした後は、ホッパー装着ネジを締め付けて固定してください。



お願い

ホッパー装着ネジは必ず締めてください。

ホッパー装着ネジは、安全装置を兼ねているため、本体のネジ穴にきちんと締められていないと、電源が入りません。

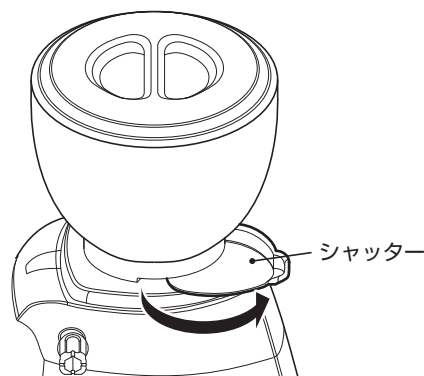
ホッパーを取り外す場合は、シャッターを閉め、必ずホッパー装着ネジを完全にゆるめてから取り外してください。

ホッパー装着ネジが締まっている状態で、ホッパーを取り外すと、ホッパーを破損する恐れがあります。



3. ホッパーのシャッターを開いてください

シャッターを、機械の右後方向に引き出して、開けてください。



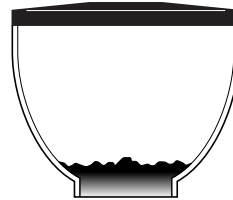
4. ホッパー内にコーヒー豆を入れてください

ホッパー蓋を取り外し、コーヒー豆（最高 900g まで）を入れてホッパー蓋をセットしてください。

メモ

ホッパーの豆量が少なくなると（約3分目以下）、ミルカッターにかかる重量が軽くなり、コーヒー粉の状態にバラつきが出る可能性があります。

安定したメッシュを得るため、ホッパー内にはコーヒー豆を3分目以上入れておいてください。



※豆が少なすぎるとメッシュは粗くなる。→抽出時間が速くなる。

お願い

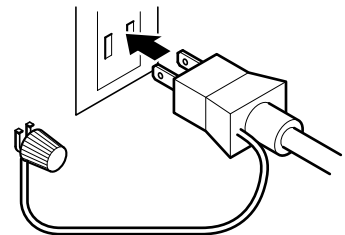
ホッパー内にコーヒー豆以外の異物が入らないようにしてください。

機械の故障、カッター破損の原因になります。

万一、カッターに異物がかみ込んだ場合、モーターがロックすることがあります。

その場合は、本機専用電源を「OFF（切）」にして、ホッパー内のコーヒー豆を取り出して異物を除去してください。

5. 電源プラグを接続して、電源スイッチを入れてください

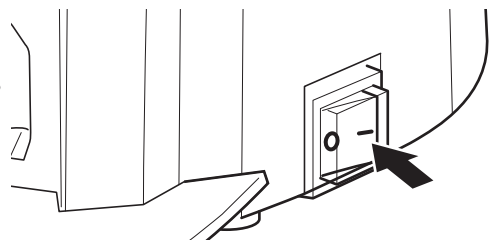


本体右下にある電源スイッチを「-」の方向に倒し、電源を入れてください。

電源スイッチが緑色に点灯し、豆を挽き始めます。

メモ

ホッパーが正しくセットされ、電源プラグが接続されていないと、電源は入りません。



挽かれたコーヒー粉は、粉容器内に溜まります。

粉容器内にコーヒー粉が溜まると、自動停止スイッチがはたらいてモーターの回転が止まります。

6. 電源スイッチを切ってください

連続してコーヒー豆を挽く場合は、電源スイッチを切らずにシャッターを開けたままにしておいてください。コーヒー粉を取り出し、粉容器内の粉が少なくなると、自動的にコーヒー豆を挽き始めます。

お願い

連続してコーヒー豆を挽く方法でご使用になった場合は、終業時には必ず本体の電源スイッチを切ってください。

コーヒー豆は、袋などに入れて密封し、温度の低い乾燥した場所に保管してください。直射日光の当たる場所は絶対に避けてください。

コーヒー粉の取出しかた

1. エスプレッソ抽出容器（エスプレッソコーヒーマシンの付属品）を抽出容器受けにセットしてください

2. コーヒー粉を取り出してください

取り出し量を変える場合は、「取り出し量の調節方法」（13 ページ）を参照してください。

エスプレッソ抽出容器の1人用では、粉取出レバーを1回動かしてください。

約7gのコーヒー粉を取り出せます。

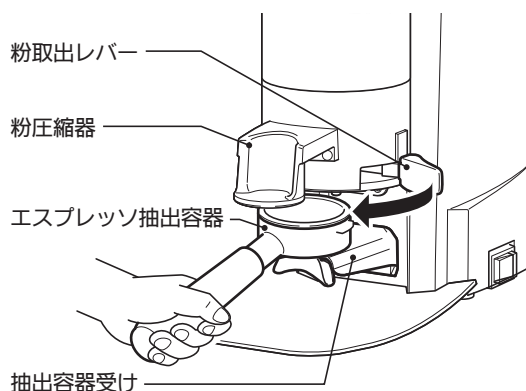
エスプレッソ抽出容器の2人用では、粉取出レバーを2回動かしてください。

約14gのコーヒー粉を取り出せます。

カウンターについては、1回コーヒー粉を取り出すごとに、取り出し回数がカウンターに積算表示されます。

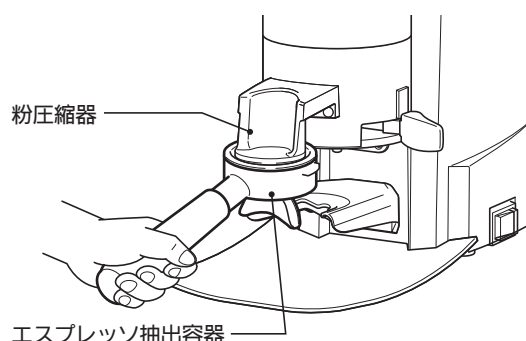
メモ

カウンターの数値は、リセットすることはできません。



粉取出レバーを1回動かしますと、約7gのコーヒー粉が取り出せます。

3. エスプレッソ抽出容器にコーヒー粉が取り出せましたら、本体の粉圧縮器に押しつけて、エスプレッソ抽出容器内のコーヒー粉を押さえつけてください



エスプレッソ抽出容器をエスプレッソコーヒーマシンにセットし抽出してください。

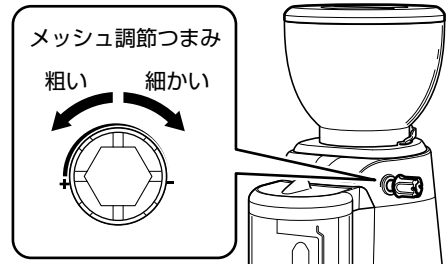
エスプレッソ抽出容器のセットのしかたと、抽出のしかたについては、エスプレッソコーヒーマシンの取扱説明書をお読みください。

メッシュ（挽きの粗さ）調節について

コーヒー粉のメッシュは、実際にエスプレッソコーヒーマシンでエスプレッソを抽出して、抽出の状態を確認し、お客様の好みのメッシュになるよう調節してください。

1. メッシュ調節前の粉と混ざらないように粉容器内の粉を取り出して、空にしておいてください
2. メッシュ調節つまみを回して、メッシュを調節してください

メッシュ調節つまみをゆっくり回しますと、半回転ごとに「カチ」とかかるところがあります。メッシュ調節つまみを1、2回「カチ」とかかるところまで回したあと、豆を挽いてメッシュを確認してください。



抽出時間が短く泡立ちが悪い場合

- 時計方向（⌚方向）に回してメッシュを細かくしてください。

抽出時間が長すぎる場合

- 反時計方向（⌚方向）に回してメッシュを粗くしてください。

お願い

カッターが擦れ合うまでメッシュ調節つまみを時計方向に回してメッシュを細くしないでください。

ミルカッターの目詰まりや、モーターの故障の原因になります。

新品のコーヒーミルは、使い始めしばらくはミルカッターの刃が馴染んでいないため、摩耗が速く進みます。そのためメッシュが粗くなりますので定期的に調節をおこなう必要があります。

本機も、使い始めから50kg～80kg程度（コーヒー豆の種類によって異なる）のコーヒー豆を挽くまではミルカッターの摩耗が速く導入時に比べてメッシュが粗くなっていきます。ミルカッターの刃がなじんできると、ミルカッターの摩耗速度が遅くなり、メッシュが安定してきます。ただし、美味しいエスプレッソを提供していただくために、定期的にエスプレッソの抽出状態を確認し、メッシュの微調整をおこなってください。

ホッパー内のコーヒー豆量が少なくなるとメッシュが粗くなりますので、9ページをご参照いただき、ホッパー内の豆量を常に3分目以上に保ってご使用ください。

コーヒー豆が全く挽けない場合は、メッシュ調節つまみを反時計方向（粗くする）に約10目盛くらい回して、一度粗挽きにしてから徐々に元のメッシュに戻してください。

季節（湿度）によっては、コーヒーの抽出時間が変わることがあります。

コーヒーマシンでコーヒーを抽出して、コーヒーの抽出時間が変わっているときは、メッシュの調節をおこなってください。

メッシュ調節をおこなっても細かくななくなつた場合は、ミルカッターの寿命ですので、交換が必要となります。お買上げ店にご連絡ください。

取り出し量の調節方法

工場出荷時、1回のコーヒー粉取り出し量は標準（1回分 7g）に調節してありますが、お客様のお好みで取り出し量を増減される場合は下記の要領でおこなってください。

コーヒー粉の取り出し量は、6～9gの範囲で調節が可能です。

1. 粉容器蓋を取り外してください

2. 粉容器内の粉量調節つまみを下方に押しつけながら回してください

粉調節つまみを回すと、「カチッ、カチッ」と音が鳴ります。

1 回当たりの粉量を少なくする場合

→ 時計方向に回して、粉量を少なくしてください。

1 回当たりの粉量を多くする場合

→ 反時計方向に回して、粉量を多くしてください。



粉量調節つまみを下方に押しつけながら回す

多くなる

少くなる

スクレーパーは回さない

お手入れ

いつも清潔にご使用いただくためと、機械を長持ちさせるために、作業終了後は各部をお手入れしてください

⚠ 注意



本体に直接水をかけないこと
漏電、ショート、感電の原因になります。

1. 本体の抽出容器受けなどに付着しているコーヒー粉は、柔らかい刷毛やブラシで払い落とし、柔らかい布で拭いてください
2. 受け皿に溜まった粉は捨てて、柔らかい布できれいに拭いてください
3. 本体周辺に飛び散った粉は、掃除機で吸い取ってください
4. ホッパー内および本体外装部に付着したコーヒー豆の油汚れは、食器用中性洗剤を含ませた布かスポンジを硬く絞って拭き、きれいな水で濡らした布を硬く絞って十分に洗剤成分を拭き取ってください

その後完全に乾燥させてください。

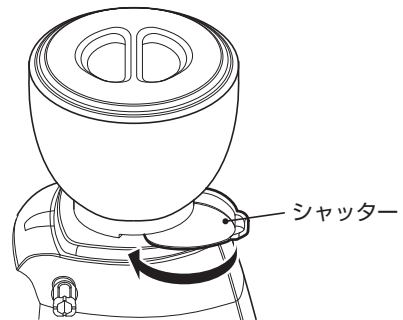
お願い

清掃をするとき、クレンザー、酸類、ベンジン、ガソリン、シンナーなどは使わないでください。
キズがついたり、破損の原因になります。

ホッパーを取り外す場合は、シャッターを閉め、必ずホッパー装着ネジを完全にゆるめてから取り外してください。

シャッターが開いたままですと、ホッパーを取り外した際に、ホッパーの下からコーヒー豆がこぼれます。

ホッパー装着ネジが締まっている状態で、ホッパーを取り外すと、ホッパーが破損します。



故障の診断と手当

故障かなと思われ修理を依頼する前に、次の項目を確認してください。

症状が改善されないときや「手当」の欄に「お買上げ店へ連絡してください。」と記載されている場合は、本機の電源スイッチを切って機械を止め、電源プラグを抜いて、早急にお買上げ店へ連絡してください。

ご連絡の場合は、本機の型式名、機番、お買上げ日、故障状況（できるだけ詳しく）をお知らせください。

状 態	確認 / 症状	手 当
電源スイッチを入れても コーヒー豆を挽かない (※電源スイッチが点灯しない場合)	電源プラグが抜けていませんか？	電源プラグが抜けているときは、電源プラグを差し込んでください。
	停電ではありませんか？	通電するのを待ってください。
	機械の故障の可能性があります。	お買上げ店へ連絡してください。
電源スイッチを入れても コーヒー豆を挽かない (※電源スイッチが点灯している場合)	ホッパー装着ネジがゆるんでいませんか？	ホッパー装着ネジがゆるんでいる場合は、締め付けてください。
	ホッパーのシャッターを閉じていませんか？	シャッターを開けてください。
	粉容器内にコーヒー粉が多量に溜まっていませんか？	粉容器からコーヒー粉を取り出してください。
	モーターの保護装置が作動している可能性があります。	電源スイッチを切り、時間を置いてから再度電源を入れてください。
	ミルカッターが、目詰まりしている可能性があります。	メッシュ調節つまみを回し、メッシュを粗くしてからモーターを回転させてください。症状が改善されないときは、お買上げ店へ連絡してください。
	電源基板のヒューズが切れている可能性があります。	お買上げ店へ連絡してください。
	機械の故障の可能性があります。	お買上げ店へ連絡してください。

状 態	確 認	手 当
本体から異常音が発生する	丈夫な所に設置していますか？	不安定な場合には、お買上げ店へ連絡してください。
	据え付けが悪く、がたついていませんか？	水平で平らな場所に据え付けてください。
	本機に何か触れた状態になっていませんか？	接触しているものを取り除いてください。
	カッター部に異物が噛み込まれていませんか？	電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、カッター部の異物を取り除いてください。
	ホッパー蓋、粉容器蓋、受け皿が正しくセットされていますか？	ホッパー蓋、粉容器蓋、受け皿を正しくセットしてください。
	機械の故障の可能性があります。	お買上げ店へ連絡してください。
メッシュが粗すぎる	ミルカッターが、目詰まりしている可能性があります。	12 ページの「メッシュ調節について」を参照して、メッシュの調整をおこなってください。 症状が改善されない場合は、お買上げ店へ連絡してください。
	ミルカッターが摩耗している可能性があります。	
メッシュにバラツキがある	ホッパー内のコーヒー豆の量が少なすぎる可能性があります。	9 ページを参照して、豆の量を調整してください。 症状が改善されない場合は、お買上げ店へ連絡してください。
漏電遮断器が切れる	漏電遮断器のレバーの位置が「OFF(切)」になっていませんか？	漏電遮断器が「OFF(切)」に作動した場合には、お買上げ店へ連絡してください。レバーが「OFF(切)」になっていると漏電している可能性があります。無理にレバーを「ON(入)」にすると、感電や火災の原因になります。
電源コードが異常に熱くなる	電源コードを束ねていませんか？	電源コードを束ねている場合は、解いてください。
	電源コードをものなどで挟み込んでいませんか？	電源コードを挟み込んでいるものを取り除いてください。

据付けについて

⚠ 警告



湿気の多いところや、水などがかかり易い場所に据え付けないこと

絶縁低下から漏電、感電の原因になります。



本機の電源は、専用の漏電遮断機付きサーキットブレーカーもしくは、それと同等の設備のある専用コンセントを使用すること

電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、およびタコ足配線をした場合には、感電や発熱、火災の原因になります。



アース線を必ず接続すること

アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。

アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

設備側にアース端子がない場合、電気工事士によるD種接地工事が必要です。電気工事店に依頼してください。

⚠ 注意



丈夫で平らな所に水平になるように据え付けること

据え付けに不備があると転倒、落下によるケガなどの原因になります。

作業に支障がないように、十分なスペースを確保してください

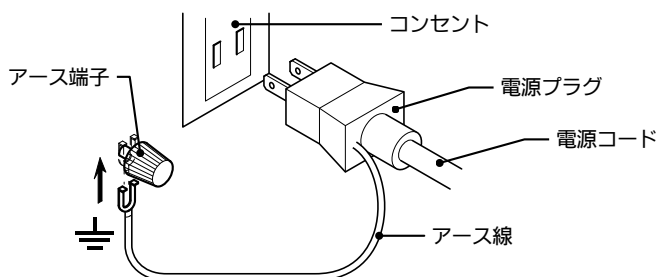
粉容器が正面にくるように据え付けてください

本機は、コンセントに電源コードを接続した場合、コードに余裕があるように据え付けてください

電源コードの長さ：2m

アース線（黄 / 緑色の線）をアース端子に接続してください

ご使用の際は、本機専用コンセントに電源プラグを差し込んでください



[illegible]

[illegible]

仕様

品 名	エスプレッソ専用ミル【ラ・チンバリ】
型 式	ENEA(100V)
外 形 寸 法	幅 195・奥行 430・高さ 510mm (突起物を含む 幅 215mm)
電 源	100V 50/60Hz
電 流	1.9 / 2.2A
消 費 電 力	170 / 220W
定 格 時 間	1 分 ON / 8 分 OFF
安 全 装 置	モーター保護装置付、ホッパー安全装置付
ホッパー容量	900g (コーヒー豆量)
粉量調節範囲	6 ~ 9g
電源コード	長さ : 2m
質 量	10 kg

※上記の仕様は、品質向上のため予告なしに変更されることがありますのでご了承ください。

主 要 部 品	ホッパー (ホッパー蓋付) 1 個 受け皿 1 個
---------	--

保証書(別添付)について

保証書の内容をよくお読みのうえ、必要事項を必ずご記入ください。

保証書から返信ハガキを切取っていただき、保証書は紛失にご注意され、お客様にて大切に保管してください。

返信ハガキは商品ご購入後、1か月以内にご返信ください。

消耗部品

本商品の消耗部品は以下のものになります。

ミルカッター	—
--------	---

補修用性能部品の保有期間

補修用性能部品とは、本商品の性能を維持するために必要な部品です。

弊社では、本商品の補修用性能部品の保有期間は、販売打ち切り後5年とさせていただきます。

株式会社エフ・エム・アイ

東 京：〒106-0041 東京都港区麻布台1丁目11番9号 Tel.03(5561)6521

大 阪：〒538-0044 大阪市鶴見区放出東3丁目11番31号 Tel.06(6969)9393

営 業 所 札 幌：〒003-0002 札幌市白石区東札幌二条5丁目4番1号 Tel.011(813)8651

仙 台：〒983-0039 仙台市宮城野区新田東1丁目15番6号 Tel.022(238)5711

名古屋：〒454-0822 名古屋市中川区四女子町2丁目46番地 Tel.052(361)7891

広 島：〒731-0102 広島市安佐南区川内6丁目43番9号 Tel.082(876)1855

福 岡：〒812-0839 福岡市博多区那珂1丁目30番21号 Tel.092(481)2931

出張所 北 陸：〒921-8027 金沢市神田1丁目23番11号 Tel.076(243)7810

沖 縄：〒901-2214 宜野湾市我如古1丁目54番21号 Tel.098(870)2766

サービス 盛 岡：〒020-0124 盛岡市厨川4丁目14番5号 Tel.019(648)5390

ステーション 四 国：〒768-0012 香川県観音寺市植田町155番地1 Tel.0875(57)5161

鹿児島：〒890-0073 鹿児島市宇宿1丁目15番8号 Tel.099(263)8281

東京修理工場：〒130-0011 東京都墨田区石原4丁目35番7号 Tel.03(5819)1280

ホームページ <http://www.fmi.co.jp/>

202010 PC'